

新潮流

攻めるベンチャー

カンパニーアシスト
(浜松市、平川昌彦社長)

は企業向けに決算関係書類や伝票などのデータ入力や集計代行、顧客データの管理・分析、市場調査などを手がける。税理士として事務所も構える平川社長の会計・経営関係の知識とソフト開発力が特徴だ。中小企業のデータ管理と経営面を支援するとともに、将来は他の専門家と連携し、より広範な企業支援体となることを目指す。

カンパニーアシスト (浜松市)



平川昌彦社長

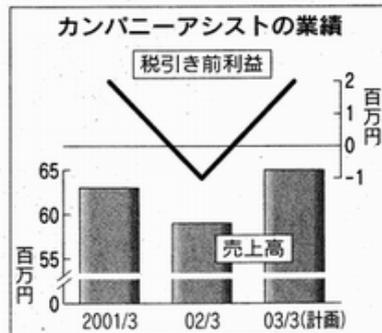
中心事業である伝票などのデータ処理サービス



多様な分野の入力や集計を手がける

幅広いデータ処理強み

は、顧客から伝票の紙の業の顧客登録情報、医療たデータをもとに、顧客東を受け取りコンピューターに数値などを入力、関係のレポート(調剤報属性の分析や経営助言な集計する。会計事務所が酬明細書)などの入力、どが可能だ。「中小企業財務関連の計算会社を設このデータ処理の幅広、支店会社」(平川社長)に、顧客のデータ処理をさし平川社長の税理士のと異なるわけだ。どが担当するが、増員す請け負うのは珍しくな知識が加わると同社の強多様なデータを扱うに費負担も生じる。い。これに対し同社は販みが増すことになる。企はデータ入力の精度や管このため同社は社内で売や仕入れの伝票、小売業から入力用に受け取っ膨大な数字を迅速に処理



中小支援へ異業種と連携

〈会社プロフィール〉 二〇〇二年三月期は大平川昌彦社長(41)は愛知大学大学院修了後、一環で受託が減少した地元浜松市の会計事務所などに就職。別の会計事務所を経て一九九二年にカンパニーアシストを設立した。従業員は現在十三人を抱える。

「将来は異業種連携で地域の中小企業を包括的に支援できる体制をつくる」。平川社長はこう意気込む。同社が手がけるデータ処理や税務の知識に、労務や法務など別の専門知識が加われば顧客

「将来は異業種連携で地域の中小企業を包括的に支援できる体制をつくる」。平川社長はこう意気込む。同社が手がけるデータ処理や税務の知識に、労務や法務など別の専門知識が加われば顧客